

学長告辞（平成 26 年度卒業式）

学習院大学の卒業生の皆さん、大学院の修了生の皆さん、おめでとうございます。ここからお祝い申し上げます。

本年度の学部卒業生は、法学部、経済学部、文学部、理学部の 4 学部あわせて 2003 名です。この 2003 名のなかには山岳部の主将も含まれております。大学院の博士前期課程の修了生は 5 研究科あわせて 135 名、博士後期課程に在籍中に博士の学位を授与され課程博士となられた方が 9 名、法科大学院を修了して司法試験に挑戦する資格を得た皆さんは 34 名おります。すべての卒業生、修了生の皆さん、あらためておめでとうございます。

ご父母の皆様、ご家族の皆様、関係の皆様もお慶びのことと存じます。

ここに学習院長、桜友会長、父母会副会長をはじめ、来賓各位のご臨席を賜わるなかで、卒業式・修了式を挙行できますこと、大変うれしく思います。この式典には卒業後 30 周年、40 周年、50 周年、60 周年を迎えられた卒業生の代表の方々にも、ご列席いただいております。大変ありがたく存じます。

ここに出席している大多数の方が学習院大学に入学したのは、4 年前の 2011 年（平成 23 年）4 月のことでした。この年、何が起きたかはたとえ忘れようとしても忘れることができません。2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が起きました。

入学式は中止を余儀なくされました。それにもかかわらず、全国各地から被災地からさえも 2000 人前後の新入生が続々と目白の杜に集まりました。入学式の晴れ姿を飾るはずの新しい服にそでをとおす機会もなく、授業が始まったのは昨日のこのようです。

大震災の発生直後、被災地を中心に生まれた助け合いと譲り合いの精神が全国に広がり、国際社会は日本を称賛しました。自分の国ならば略奪や暴動が起きかねない。それなのに日本はちがう。社会秩序が保たれている。そう評価されたのです。

私はこの年の 9 月初めに、フランスのパリで東日本大震災と関東大震災を歴史的に比較するテーマで講演をおこないました。会場は満員で、実際に被災地でボランティア活動に従事されたフランス人の女性が助け合いと譲り合いの精神に満ちていた日本社会について質問ではなく、お話をしてくださいました。

他方で大きな不安を覚えることもありました。この年の夏、私は台湾に出張しています。台湾の夜は明かりが煌煌と輝き、ホテルや会議室は寒いくらいエアコンが効いていました。節電が当たり前になっていて、暗くて暑苦しい東京から行ったので、台湾は別世界でした。

日本はどうなるのだろう。この不安感は原子力発電所の被害がきわめて重大だったとわかった時、より強くなりました。加えてこの頃から助け合い・譲り合いの相互扶助の精神は失われ、代わりに日本社会に分断線が走るようになっていきます。すでに格差拡大社会の問題が強く意識されるようになっていました。そこに生じた日本社会の深く大きな亀裂は、修復が困難になるのではないかと思えるほどでした。

目白の杜のキャンパスに話を戻しますと、3・11 大震災は、学部や大学院のちがいをこえて直接的であれ間接的であれ、もっとも重要なテーマとして議論されていました。被災地でのボランティア活動に従事した学生も少なくありません。時間の経過とともに、大学の日常生活が回復していきます。皆さんは助け合いと譲り合いの精神を持ちながら、学業と課外活動を両立させて、充実したキャンパスライフを送るようになりました。学生生活の場は目白の杜から世界へと広がり、留学や海外研修に挑戦した人もいました。現地の大学生となかよくなって、今も SNS で交流を続けている人もいます。

学生生活はいつも楽しいことばかりとは限りません。研究テーマを決めても、すでに多くの先行研究があって、行き詰ることもしばしばあったにちがいません。それでも本を読み、資料を探し、実験を重ねて、新しい知見を得る。それは巨大な学問の体系に対してさ

さやかな貢献でしかなくても、ひとりひとりにとってはかけがえのない貴重な経験でした。

就職活動では社会の不条理に直面しましたね。面接の時、あれほど話が盛り上がったのに、「ご縁がなかった」旨のメールが届いてがっかりする。そうかと思えば、目の前で履歴書を破られたのに、なぜか内定がもらえる。

このことに限らず、より広く社会が持つ不条理に対して、皆さんは非難するよりも、社会のなかに入って、なかから不条理な社会を変えていく決意を固めました。このように決意できたのは、大学生活で得た貴重な経験が背景にあったからにちがいません。3・11大震災後の日本社会に生じた亀裂を修復し、格差を是正する。日本を成熟した先進民主主義国にする。皆さんはきっと成し遂げるでしょう。日本社会が悪くなったとすれば、それは私のような上の世代に責任があります。皆さんに責任はありません。皆さんが自由にのびのびと、新しい社会を作っていくように、強く期待しています。

それでも皆さんの人生の行く手には何が待ち構えているかわかりません。不安に陥ったり、悩んだり、判断に迷うことが起こらないとは限りません。そんな時にはぜひ目白の杜のキャンパスを訪れてみてください。部活動の後輩やゼミの先生と再会するかもしれません。その人たちはあなたが忘れかけた学生時代に抱いていた夢や希望を思い出させてくれるでしょう。

誰にも会えなくても大丈夫です。目白の杜は不思議な力を持っています。人生の分岐点でどちらに進めばいいのか。この判断にまちがいはないのか。目白の杜のなかでひとり考えてみると、答えが出ます。一步前へ進む勇気が沸きます。目白の杜は正しい方向へ背中を押してくれます。

ですから皆さんに卒業おめでとう、修了おめでとうと言います。でも「さようなら」とは言いません。目白の杜で再会できるのを楽しみに待っています。

最後にもう一度、卒業生、修了生の皆さんにおめでとうと申し上げます。今日この場にいることができるのは、ご父母の皆様をはじめとして多くの方々が支えてくださったからであることを忘れないでください。皆さんのご健闘を祈っております。

以上をもって告辞とします。

平成 27 年 3 月 20 日 学習院大学 学長 井上寿一